

大きく深呼吸、森のあそびを楽しむ達人

徳田 侍汰さん、中村 澄海さん、山本 菜々美さん(森づくりサポーター・森守子どもサポーター)

びわこ地球市民の森を居場所にして楽しく遊び、学び、活動する3人の子どもたち取材しました。



森守子どもサポーター始動 プレイパーク構想の第一歩

県営びわこ地球市民の森では、平成13年から13年間で植栽された16万本を超える苗木が成長してきています。森づくりの活動も「植樹」から「育樹」へと変わってきました。森の育樹は、文字通り森を育てることで、合わせて、多くの人に森を活用してもらっています。



山本 菜々美さん

「プレイパーク」(森の中で自分で考えて遊ぶ)の構想を持っています。
実現への第一歩として、今年8月に児童対象の「森守子どもサポーター」を立ち上げました。



徳田 侍汰さん

3人の子どもたちが見せた 「遊び」からの学びと成長

森守子どもサポーターは、小学4～6年生を対象に「森を育てて子どもを育てる」実践の試みです。立ち上げの隠れた立役者が、徳田 侍汰さん、中村 澄海さん、山本 菜々美さんの3人の

子どもたちでした。
徳田さん、中村さん、山本さんの3人は、ひなぎくこども園の同窓生で、今は速野小学校の6年生。それぞれに森が好きで、家族や友達と、1人でも放課後や休日など時間があると森に遊びに来ていました。
小林さんの誘いで、今春「森づくりサポーター」(企業や団体・個人が登録)に個人登録してから、ノコギリの使い方を教えてもらいました。最初は間伐材でクラフト用の円盤を作ることからでしたが、どんどん上達して今では間伐の作業も様になってきました。

それだけでなく、ほかの森づくりサポーターの清掃活動に参加したり、困っている来園者に声をかけたり、小さな子どもたちの遊び相手になったり、自分で「やりたい」と感じる、いろいろ

るな活動でスタッフの手伝いをするようになりました。
森はとても落ち着く場所
出会いと経験を重ねて

らないけど、森がすごく好きです。少しはにかみながら教えてくださいました。
大人でも森林浴が健康に良いというくらいで、森はパワーにあふれています。3人の子どもたちは森で遊びながら、デイキャンプに参加したり、いかだづくり(野洲川冒険大会に出場)をしたり、たくさんのお出合いと経験を重ねてきました。3人は

「中学生になったら忙しいかもしれないけれど、これからも森で自主的なサポーター活動を続けたい」と意気込んでいます。
中村 澄海さん

「プレイパーク」の夢へ、子どもたちに見えた手応え

びわこ地球市民の森副所長 小林 竜太さん

びわこ地球市民の森によく遊びに来ている子どもたちがいるなど、いうくらいでしたが、顔を覚えていました。「ホッピングで記録に挑戦しよう」というイベントに参加していた徳田さんと中村さんが、森を大切にしていることも伝わってきたし、なんとなく私たちスタッフのお手伝いを

したがっているように見えたので、「森づくりサポーター」に誘ってみることにしました。楽しんで活動しているのを見て、少し遅れて山本さんもサポーターになりました。
子どもなので遊びが一番ですが、毎日のように来て、「こぼらん(小林さん)、何かすること

ない」と声をかけてくれて、楽しんで手伝ってくれます。
徳田さん、中村さん、山本さん3人の姿が私たちの「森を育てて子どもを育てる」プレイパーク構想に自信をくれました。森守子どもサポーターでもリーダー的な存在になるのでは、と期待しています。



小林 竜太さん



森守子どもサポーターの活動間伐モリック※モリックとは守山の森とモリックをかけた造語です。



中村 澄海さん